

被爆桜について

磐田市の被爆桜は、広島市の安田女子高等学校の校庭にある桜の木から、同校の生徒さんが接ぎ木という方法で作った苗木を植樹したものです。

昭和20年8月6日、爆心地から2.1キロの場所でこの桜の木は被爆。当時、そこは工兵隊の兵舎でしたが、より爆心地に近い場所で大きな被害を受けた安田女子高等学校がこの場所に移転したことで、現在の形となりました。

長い間、たくさんの悲劇と広島の復興を見続けてきた被爆桜は、今も春になると美しい花を咲かせています。しかし、ソメイヨシノの寿命は60年から80年といわれ、当時の桜はほとんど枯れてしまったため、現在も残るこの桜は、たいへん貴重なものだそうです。(広島市が認定する被爆桜は、平成31年4月現在で4本のみ。)そして、安田女子高等学校は平成19年から生徒会などが中心になって、全国の学校などに苗木を送り、被爆桜の命を後世に伝えていく活動を始めました。

磐田市は平成22年度より、広島平和記念式典に中学生を派遣する事業をスタートさせましたが、その際、平和記念公園で偶然お話をした生徒さんとの交流が縁で、この桜の苗木をいただき、市内中学校8校とかぶと塚公園内に植樹しました。また、平成25年度からは小学生も加えて派遣し、安田女子高等学校を訪問したことから、市内の4小学校へ新たに被爆桜の苗木を送っていただき、植樹しました。

安田女子高等学校の生徒さんは、1人でも多くの方がこの桜の美しさに触れ、生きることの喜びを感じてほしい、さらに平和に対する夢と希望を発信したいと考えています。機会があれば、ぜひ市民のみなさまにもこの桜を見ていただきたいと思います。



かぶと塚公園内 (磐田市総合体育館東側)